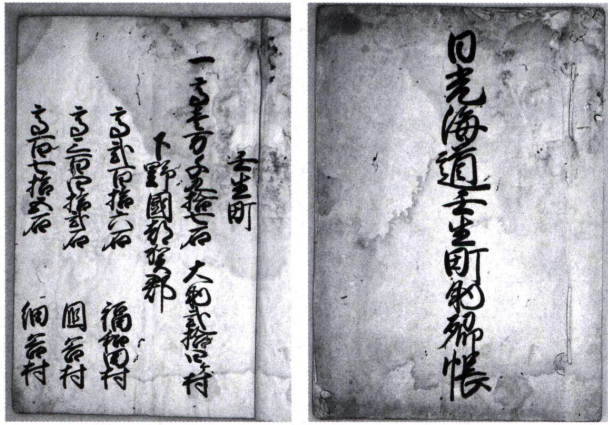


田代善吉氏収集文書

昭和の戦前期に『栃木県史』全十七巻の執筆頒布という大事業を独力でなしたとげた田代善吉氏（号は黒瀧）の関係資料が、田代善吉氏収集文書として栃木県立文書館に収蔵されています。ここには善吉氏の辞令など個人的文書と共に各地から収集された古文書が含まれています。

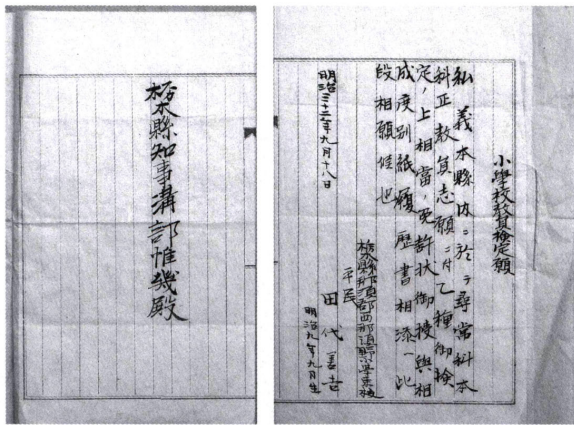
一、田代善吉氏収集文書



日光海道壬生町助郷帳 (No.1)

延宝八年（一六八〇）宇都宮宿の中

心部である「新石町年貢割付状 (No.8)」は、近世初期の宇都宮町の状況をよく伝えています。元禄十年（一六九七）「日光海道壬生町助郷帳 (No.1)」は壬生町に定助郷の成立を伝え、天保十四年（一八四三）「勸化巡行帳 (No.5)」は焼失した宇都宮大明神再建のため、七ヶ国に募金活動を公認した幕府命令です。系統的とは言えないながら歴史的にはえがたい貴重な史料です。

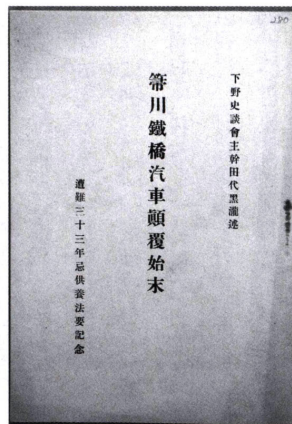


明治32年小学校教員検定願 (No.276)

二、田代善吉と箒川列車転覆事故

田代善吉は那須郡高林村（現那須塩原市）の尋常小学校を卒業し農業に従事していましたが、一念発起し師範学校を志すようになります。「明治三

十二年小学校教員検定願 (No.276)」に小学校に勤めながら師範を目指している若き善吉の姿があります。その最中の明治三十二年（一八九九）十月七日事故に見舞われます。「箒川鉄橋汽車顛覆始末 (No.280)」は、



箒川鉄橋汽車顛覆始末 (No.280)

十二年小学校教員検定願 (No.276) に「私が小学校教員検定受験のため宇都宮に参り、試験も終わって帰ろうとした日は朝から大雨、矢板駅に着いたのは五時頃、強風強雨で気味が悪い様であった」。列車が箒川の鉄橋に差し掛かって強風のため事故となった。

善吉は救助され応急手当のち宇都宮に送られ県立宇都宮病院に入院しました。「風俗画報臨時増刊第一九九号 (No.278)」に詳細が報じられていますが、診断は軽症とありながら大変な重体で退院は十一月二十五日となっています。田代文書は事故から入院退院の状況を伝えた証言集でもあります。

三、田代善吉と郷土史研究

善吉は早くから郷土史研究をめざしていました。大正十年（一九二一）県立宇都宮中学校教諭田代善吉は「栃木県史蹟名勝天然記念物調査会委員 (No.161)」を委嘱され活動し、昭和十八年（一九四三）には「下野史談会」設立シ会長トナリ郷土史二関スル研究著述ニ従事、栃木県史ノ大著ヲ完成」として藍綬褒章 (No.196) を受けています。

（奥田謙一）



前列左の顔面包帯が田代善吉